

授業科目：	教育社会学		
科目区分：	教職科目	受講者数：	20名
担当者：	藤井 宣彰（生命環境学部環境科学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ <b>参加型</b> ・ 複合型（※行動型・参加型ALを組み合わせで実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	グループワーク，ディスカッション		

## 1. 授業の概要と目標

この科目は、教育職員免許法等に基づき開設されている本学教職課程の科目である。教育の基礎理論に関する科目として開講されており、とりわけ教育に関する社会的・制度的・経営的事項を中心に学修する。

学校や教育行政制度と改革動向について基本的な知識を身につけ、教員として勤務し、地域と連携しながら生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度、学校経営に関する事項を学修する。

本時は、教員の服務について理解し、事例から自身が留意すべきことを考察する。

## 2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名「教育社会学」 第14回「教員の服務」

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入	発問「教員の不祥事に関するニュースを見たことがありますか。」(5分) 本時は教員として勤務する上で求められる義務について学ぶ。(5分) 板書「教員の服務について理解する」	表情等で反応を見せた学生を指名し、発言させる。	
展開	身分上の義務と職務上の義務に関する事項についての解説をする。(30分)  事例研究(4名程度によるグループワーク) 個人情報漏えいについて、実際にあった事例について紹介する。(15分)  ディスカッション(15分) 論点 ・学校が保有する個人情報にはどのようなものがあるか。 ・事例の教員の行動における問題点は何か。 ・防止のためにどのような対策を取る必要があるか。  共有(10分) グループごとに出た意見について発表を求め、クラスで共有する。	学生にイメージしやすい例えを交える。 (例：家族が出しているお店を手伝うことは、副業と誤解される可能性がある。)  学生にもなじみがあるものによる事例を用いる。  あまり考えが出ない場合は補足を加える。 個人で注意するだけでなく、組織的な問題や対策にも目を向けさせる。  否定的なコメントをしないように意見を受ける。	ワークシートへの記述内容。
まとめ	本時の振り返り(10分) 教員の服務には何があるか。 違反した場合の処分。 個人としての心掛けと組織的対策。		

### **3. 成果・効果**

授業アンケートに、USBメモリーの紛失など事例が分かりやすいという自由記述があり、具体的なイメージを持つことができている様子がうかがえる。

グループワークでは積極的な学生とそうでない学生がいるため、発表させる学生は教員がランダムに指名するようにして、何もしないことができにくくしてみた。

学生の中で、一通り意見が出たと判断したグループは議論が終わる場合があるため、「個人が気を付けていてもミスは起こるので、学校としての防止策をどうすればよいか。」といった声かけを行った。

### **4. 課題**

授業内容が大切なものであるとの認識はあるようだが、さほど強い教職希望のない者など、自身には関係のないことと捉える者もいる。例え教員にならないにしてもこのような義務が課されることは意識させたい。

授業外学修時間を増やすため、教員から事例を提示するだけでなく、宿題として事例を収集させることも考えられる。

### **5. 資料**

教育委員会による啓発資料等